

令和5年度 第1回 第1層協議体 議事要約

日時：令和5年7月27日（木）

午後2時～午後3時30分

場所：枚方市保健センター 4階 会議室

発言者	内 容
事務局	<p>令和5年度第1回第1層協議体を開催いたします。</p> <p>はじめに、健康寿命推進室 室長よりご挨拶をさせていただきます。</p>
事務局 室長	<p>平素より、本市高齢者保健福祉行政に、ご理解・ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。また本日は、お忙しいところに加え、災害級に暑い中、令和5年度第1回第1層協議体にお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>さて、超高齢化社会を迎えることによる2025年問題が目の前に迫ってまいりました。地域包括ケアシステムの深化に向け、この第1層協議体では介護予防・日常生活支援総合事業における生活支援等のサービス体制の整備を担い、皆さまのお力をお借りしながら様々な取り組みを進めてきたところでございます。</p> <p>一昨日、枚方市の介護予防事業等について、お話を聞きたいと府下他市の方が訪問されました。訪問理由としては、「見える化システム」から枚方市の介護認定率が大阪府下の中でもかなり低い状況にあるというデータ、また年々認定率が少し下がってきているというデータが確認できたため、枚方市で講じられている対策を教えたいということでした。</p> <p>枚方市が何か特別な対策をしているという認識はなく、ここにお集まりの関係者の皆さまも含め関係者の方々と常日頃から同じ方向をめざし、意識しながらそれぞれの事業や施策を行っている結果、ひとつひとつの積み重ねが結果として表れているのではないかと感じております。枚方市が頑張っていると他市から声をかけていただけたのが嬉しく、皆さまのご協力のおかげと思っているため、この場をお借りしてあわせてお礼を申し上げます。</p> <p>本日の案件の一つ目では、前年度の活動の報告をさせていただきますので、各団体の活動を皆さままで共有していただきながら、さらに二つ目の案件で身近な取り組みをしっかりと積み上げていこうと提案させていただきたいと考えています。皆さまにご意見をいただきながら一歩でも前に進んでいければと考えているところでございます。</p> <p>限られた時間ではございますけれども、今後ともよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>新型コロナウイルス感染症に関する対策については、去る5月8日から法律上の位置づけが変わりましたが、高齢者と直接かかわる業務にあたられている方も多くいらっしゃいますので、マスクの着用をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、案件の説明の前に、介護予防・日常生活支援総合事業とは何か、この第1層協議体はどのような場なのかということにつきまして、三菱UFJリサーチコンサルティングが作成した動画がありますので、ご覧いただきたいと思います。（動画視聴）</p>

事務局	<p>枚方市の高齢化率は 29%超えるか超えないかぐらいのところまで推移しています。要支援・要介護認定者数は 19%程度で、全国平均よりは低い数字となっております。</p> <p>枚方市では、「第 2 層協議体」が何をするのかよくわからない、というご意見があり、本市独自に「元気づくり・地域づくりプロジェクト」と呼称しております。</p> <p>では、続きまして、案件 1 として「資料 1 介護予防・日常生活支援総合事業等の実績報告」をご覧ください。時間の関係上、一部分のみのご説明とさせていただきます。</p> <p>冒頭は、サービス事業や一般介護予防事業の教室実施回数や人数になります。新型コロナウイルス感染症の影響が残っておりまして、それ以前のものよりは若干落ち込んでいることがみられます。</p> <p>そのなかで、令和 2 年度には、全国に先駆けてオンライン介護予防教室を実施し、令和 3 年度にはオンライン介護予防教室を体験できる場として、身近な通いの場をサテライト会場として開設できるよう働きかけました。令和 4 年度も引き続き、オンライン介護予防教室の開催とサテライト会場の拡充に努めました。</p> <p>また令和 4 年度から、趣味活動による社会参加を促して介護予防につなげていく事業として、成果連動型民間委託契約方式（PFS）による介護予防事業「いくつになっても誰もが主役の介護予防事業」、愛称「SPRINGひらかた」を開始しております。</p> <p>各小学校区におかれましても、コロナ禍でもできる様々な工夫をこらした活動として実施されている、あるいはコロナ禍以前に取り組まれていた活動を再開されているところがあります。</p> <p>17 ページの水室校区や津田南校区では、コロナ禍による外出自粛による筋力低下という課題の解決策の一つとして、ノルディックポールを用いた本市の独自の「ひらかた夢かなえるエクササイズ」に自治会単位で活発に取り組まれておられます。</p> <p>21 ページのさだ校区では、「ひらかた夢かなえるエクササイズ」のオンライン教室のサテライト会場を開設し、2 つの会場で、月 2 回ずつ計 4 回、取り組んでおられます。</p> <p>18 ページの菅原東校区、西長尾校区、桜丘校区、あと 20 ページの桜丘北校区などでは、コロナ禍では屋内での取り組みは難しいため、屋外での活動としてノルディック・ウォーキングにグループで取り組む活動である「くらわんかうオーカーズ」に取り組んでいただいております。</p> <p>22 ページの香陽校区では、困りごとに対して支援を行うボランティア制度である「おたすけメイト」の運営に継続して取り組み、中宮校区が香陽校区の取り組みを参考に令和 3 年度から「おたすけメイト」の準備を始められて、令和 4 年度には本格実施に移行されており、取り組みの発展につながっております。</p> <p>23 ページの殿山第二校区では、地域の大学と連携した通いの場の実施や、高齢者の外出機会の確保とコロナ禍で激減した思い出を創出する事業として殿山第二小学校の創立 150 周年の記念として「高齢者の集い」を開催されることを元気づくりという側面で開催されました。また「消費者被害防止のための見守り活動」や生活の困窮世帯への食料品の提供体制を継続して取り組まれています。加えて住宅用火災警報器を高年齢者</p>
-----	---

	<p>に配付するというを地域づくりの側面として、幅広く取り組んでおられます。</p> <p>24 ページ樟葉南校区では、地域づくりとして、高齢者が身近なスーパーや通いの場へ移動しやすくなるよう移動支援の一つの方策として「いすを置く活動」について検討を始めておられます。</p>
事務局	<p>引き続きまして、「資料2 課題抽出シート」のまとめをご覧ください。</p> <p>これは第2層協議体（元気づくり・地域づくり会議）において検討された地域の課題等について課題区分、課題の内容、課題解決に向けた提案と効果を会議で検討していただき、今後の方向性までを記載したうえで市へ提出していただき、当課でまとめたものとなります。</p> <p>この資料では、地域の課題を共有し、この場で実現性や優先順位、必要性などを検討していくこととなります。</p> <p>1行目に記載している、樟葉校区と樟葉南校区、樟葉北校区は第1圏域合同で様々なことに取り組んでおられる関係で、3校区まとめた記載となっておりますが、課題区分としては「社会資源」、課題の内容としては「外出時に杖や歩行器を使うのが恥ずかしいと思う高齢者の方がいらっしゃる、外出の際に休める椅子やベンチがあればいいのに、そのようなものが少ない」というものとなります。この課題に対して、事業所の前に椅子を置いてもらう活動の協力を依頼しにいこうといった一つの解決策を検討されているということになります。</p> <p>この資料には、コロナ禍で人が集まらない、施設が閉まるので活動できないといったコロナ禍に起因する地域課題が相当数記載されておりますが、今後地域の活動が再開されていくことで状況も変わっていくのではないかと考えているところです。</p>
事務局	<p>それでは「資料3 地域課題の検討」をご覧ください。</p> <p>地域課題の検討を行うため、前回の配付資料を用いて説明させていただきます。</p> <p>9ページの「地域課題の抽出から、まとめ考察」は、「自立支援型地域ケア会議」や「多職種連携研究会」等で抽出された地域課題を「地域包括支援センター全体会議」でとりまとめてテーマごとに分類したものとなります。</p> <p>9ページの「高齢者の居場所づくり・外出支援について」の「課題面のまとめ」に高齢者の外出を妨げている要因は、移動を阻害する道路状況・周辺環境の存在など多岐にわたっているというような指摘をしたうえで、次のページに「外出支援においては、居場所や商店等への外出がスムーズにできるよう、移動手段の確保や外出しやすい環境づくりに努める必要がある」と考察を加えています。</p> <p>移動支援と一言で言うと大掛かりな仕掛けをイメージして路線バスやタクシーを走らせよう、といったことになりがちですが、制度や関係者間の調整が必要となります。</p> <p>この場では、身近なところから取り組める、身近なところで何かできることはないかといった視点で意見の交換を行っていきたいと考えております。</p>

事務局	<p>それでは案件2、地域課題（高齢者の外出支援）に関する意見交換について、に移ります。</p> <p>まず一つ目の「お出かけタクシー」につきまして、第4圏域の枚方市地域包括支援センター安心苑と第5圏域の枚方市地域包括支援センターサール・ナートの2つのエリアでの取り組みについて、代表して枚方市地域包括支援センター安心苑の管理者から報告を行います。</p>
地域包括支援センター安心苑	<p>「お出かけタクシーの取り組みと経過について」の資料をもとに説明させていただきます。</p> <p>自立支援型地域ケア会議は、年5回程度、各地域包括支援センターが開催します。会議の内容としては、ケアプランを個別に検討し、その個別課題から地域課題にあたるものを抽出するものです。殿山第一小学校区の自立支援型地域ケア会議の地域課題に、最寄りのバス停までが遠くて不便、自宅から離れた場所にしか社会資源がなく、交通手段・路線が不十分というのがあり、外出や買い物に困っている人は他にもたくさんいる、どのようにしたらいいだろうかと解決策の案を考えてみました。</p> <p>次に取り組みの検討を行いました。そこで「何人かでタクシーで乗り合わせていけばバス代金と変わらないのではないか」という一つの案に至りました。</p> <p>そこから、具体的な取組みへとうつります。本格的に取り組むために、第4圏域の事業計画に今年度の取り組みとして記載をしました。また、タクシー会社に相談するにあたり、健康づくり・介護予防課から土木部につないでもらい、土木部とタクシー会社、地域包括支援センターでこのような案が実現できないかと相談しました。土木部と近畿運輸局と一緒に相談行き、他市で同様の事例はないか、法的な問題はないか等を検討させてもらい、具体的に検討しているケースがUR都市機構の中宮団地で第4圏域と第5圏域のエリアであることから、第5圏域の地域包括支援センターサール・ナートと一緒に取り組んでいくことになりました。</p> <p>また、UR都市機構は枚方市と包括連携協定を締結していることもあり、何回も話し合いを重ねてUR都市機構の敷地内にタクシー乗り場を無償で設置してくれることになりました。実際には、枚方市駅まで行きたいという人がタクシー乗り場に集まって、枚方市駅で買い物をして2時間後に帰ってくるようなイメージです。まだ、スタートはしていませんが、第1回目の説明会では、そのイメージを説明しました。実際に開始する際には、内容を変えることもあるかと思いますが、地域にビラを配布して、希望者を募り開始をする予定です。</p> <p>私どもが感じていることは、行政は人も足りない、お金もない、そこでバスを出すとか補助金を出して車を走らせるというのはそもそも無理じゃないか、でも行政は、いろいろな会社との関りや人脈などを活用した紹介やつなぎ、法的な援助など積極的に協力してくれました。行政から何かしてもらおうというよりも、行政にうまく協力いただくことで、民間の力で地域のつながりや活動が発展していくのではないかと思います。</p> <p>今回、説明させていただいた外出や買い物に困っている人というのは、枚方市内のいろんなエリアで同じ課題があると思います。この取り組みが成功すれば、やり方のノウ</p>

	<p>ハウをそのまま他の地域で活用していけたらと考えています。また、この内容は地域包括支援センター主体でなければ出来ない、ということではなく、自治会でもやろうと思えばできる取り組みだと思います。</p>
事務局	<p>何かご質問等ありますでしょうか。</p> <p>開始の予定は8月1日から6か月の試行期間だと伺っておりましたが、実際の開始はいつになりますか。</p>
地域包括支援センター 安心苑	<p>8月1日からの6か月の試行期間というのはUR都市機構からタクシー乗り場を無償で借りる期間となります。実際に運行するのは、8月の第2火曜日、8月8日からの予定です。</p>
事務局	<p>乗り合うグループの数はどれぐらいあるのですか。</p>
地域包括支援センター 安心苑	<p>説明会には14人ぐらい参加されたものの、なかなかマッチングが難しく、月2回枚方市駅方面に行く1グループという状況です。行き先の希望としては病院がほとんどでした。実際に運行しながら、今後も地域に広報し続けることで、好評だったら参加者が増えていくでしょうし、増えないのであれば、また別の方法を考えていきます。</p>
事務局	<p>1人で1台のタクシーを利用するより、4人で1台のタクシーを利用して割り勘で払えば、そこそこの値段で一応タクシーに乗れるということですよ。</p>
委員	<p>もし当日に1人行かないと言い出したらどうするのですか。</p>
地域包括支援センター 安心苑	<p>1人あたりの値段が上がるごとに事前に了承しています。それは想定されることなので、事前に説明して了承を得ています。行かなければならない予定があるというのは、高齢者にはプラスになると考えています。行きたい時だけじゃなくて、その役割、行く場所、仕事がある、みんなで集まる場所に行くのが仕事という役割ができるので、よいことかなと思っています。</p>
事務局	<p>タクシー乗り場をUR都市機構が6か月間は無償で提供してくれるので、決まった場所に何時に来てね、何時に車が来るから、この乗り場には何時に来といてね、といったイメージですね。</p>
委員	<p>継続していくためには、マッチングする事務局、電話を受けるところが一番大変になるかなと思いますが、最終的には、こんな風に続けていけたら、こういうところに事務局をしたいなと考えておられるのか、ずっと地域包括支援センターでやっていかないといけないと思ってらっしゃるのか、そのイメージはどうでしょうか。</p>

<p>地域包括支援センター 安心苑</p>	<p>イメージでいうと、当然最初の試行事業の間は地域包括支援センターが事務局です。本事業になる時に、たぶん最初は事務局の役割を続けるものの、グループごとにリーダーを作ってもらって、自主運営にしていきたいと考えています。ただ、新規に参加したい人に関しては、相談の受け付けは地域包括支援センターが担い、既存のグループに加わるように働きかけを行っていくと思います。基本的には、地域の自立を目指していますが、ただ手を離すのではなくて、今後も適切な関与をしていくイメージです。</p> <p>買い物にいけない理由というのは、いろいろありますが、今まではヘルパーに買い物をお願いしていました。それでは介護人員が足りない状況なので、それをどうしようかと考えたとき、一つの方法として車が商品を持ってくる移動スーパーの提案をします。しかし、百貨店の肉しか食べないという人や、ヘルパーに百貨店まで買いに行ってくれという人もいます。次に、一緒に百貨店まで行くことを提案すると、タクシーはお金がかかると回答が返ってきます。いろいろな方法の中の1つに「お出かけタクシー」ができたらなと思っています。地域包括支援センター安心苑に連絡いただいたらお答えできますし、軌道にのりましたら、様式等も含めてパッケージにして提供させていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>第1層協議体は、年3回の開催を予定しています。1回目はこれぐらいの時期、2回目が秋冬前、最後が2月ぐらいを考えています。試行期間の6か月が終わったところに3回目の開催というスケジュール感になるため、3回目の時に結果、或いは2回目の時に途中経過を話してもらうことは可能でしょうか。</p>
<p>地域包括支援センター 安心苑</p>	<p>報告させていただきます。この取り組みについては、リスクがあるとか調整が難しいとか、取り組みを始めない理由はたくさんあると思います。しかし、取り組まない理由を考えるのではなく、完璧な物でなくてもいいので、できることから進めていこうとやってきたことなので、プロセスを含め報告をさせていただくことで、次の取り組みにつなげていきたいと考えています。</p>
<p>事務局</p>	<p>続きまして、「資料5 椅子プロジェクトについて」に移らせていただきます。</p> <p>この内容については、事例が2件あります。1つ目の事例は、第1圏域の枚方市地域包括支援センター社協こもれびで取り組んでいた事例です。もう1つの事例は第13圏域の枚方市地域包括支援センター東香会から報告いたします。</p>
<p>枚方市地域包括支援センター社協 ふれあい</p>	<p>この椅子プロジェクトの発端としては、ケアマネジャーの事例から自立支援型地域ケア会議で地域課題になったことです。その事例の内容としては、高齢者の方がお出かけをするときに、休みながらゆっくり歩かれるのですが、休む時に立ったまま休憩したり、石垣のでっばったところに腰かけて休憩したり、ということではなかなかゆっくり休めないし、転倒の危険もある。ゆっくり休めるように休む場所として椅子があったらいいのというものでした。</p>

<p>枚方市地域 包括支援セ ンター社協 ふれあい</p>	<p>ケアマネジャーの話から枚方市地域包括支援センター社協こもれびの事務所の前に試しに椅子を置きました。事務所の前は、信号のある交差点で、信号待ちをされる方が椅子に座って休憩されているのを結構見かけました。</p> <p>また、利用された方が職員にお礼を言われることもありました。</p> <p>枚方市地域包括支援センター社協こもれび以外の場所でも、休憩できる椅子を置くことを広げていけないかなと考え、樟葉校区、樟葉北校区、樟葉南校区の第2層協議体（元気づくり・地域づくり会議）で「椅子を置く活動」について報告させていただきました。さらに、第1圏域の介護事業者や薬局などに「椅子を置く活動」についてアンケートを実施させていただきました。アンケートの中から見えてきた課題としては、概ね皆さん賛同の意見ではあるものの、実際の椅子の出し入れや、破損や盗難の管理問題、或いは椅子を利用される方の転倒や事故時の対応を心配されるお声、介護事業者は車やバイクの出入りが結構多いことから危険を危惧するお声をいただきました。</p> <p>今後もできるところから少しずつ活動を広げていけたらいいとの方向性で考えており、まずは介護事業者や商店街など、ご協力いただけるよう声掛けをしていきながら、少しずつ増やしていけたらいいと考えております。将来的にはパッと一目みてわかる椅子というか、目立つステッカーが貼ってあったりとか、同じ色の椅子であったりとか、地域の方がその椅子を見て、この椅子は自由に座っていい椅子なんだと認識できるところまで進めていけたらいいなと考えております。</p>
<p>枚方市地域 包括支援セ ンター東香 会</p>	<p>主任ケアマネジャーです。今日は一緒に「白い椅子プロジェクト」の活動をしている枚方市介護支援専門員連絡協議会の第13圏域の圏域コンダクターのケアマネジャーも今日は一緒に参加しております。</p> <p>第13圏域では、プロジェクトのネーミングを「白い椅子プロジェクト」としました。そのネーミングの思いは、高齢者の方の課題、買い物などで目的地まで行くまでに少し距離がある、でも休みながらなら行ける、自分の足でそこまで行けるという思いを達成するためという高齢者が発端のものですが、障害のある方や妊婦の方、小さいお子さん連れのお父さんお母さん、地域の方どなたでも利用してください、どうぞお掛けくださいという意味で、「何色でもなく白」というイメージから「白い椅子」とネーミングしました。</p> <p>このプロジェクトの流れとしては、STEPをSTEP1～4までに細分化しています。</p> <p>STEP1しらべる、STEP2あつめる、STEP3設置する、STEP4つながり、それぞれのSTEPについて、もう少し細かく記載しています。</p> <p>「STEP1しらべる」というのは、まずは今地域にある椅子やベンチ、少し腰かけられるところを調べようということになります。このSTEP1については、第13圏域のケアマネジャーとの連絡会で説明したところ、一緒に協力しながらこのプロジェクトをすすめていこうという話になりました。</p>

<p>枚方市地域包括支援センター東香会</p>	<p>既存の椅子については、設置している方にこのプロジェクトの説明をさせていただき、賛同いただけたら、その既存の椅子にステッカーを貼らせていただいています。</p> <p>「STEP 2のあつめる」は、椅子を集めるということでもありますが、賛同いただける方を1人でも多く集めたいという思いがあってSTEP 2にしました。昨日、今日、明日の3日間に近隣商業施設でSPRINGひらかたの活躍の場が開催されています。その場にこの「白い椅子のプロジェクト」の説明も含め展示をさせていただきました。地域にお住まいの方々が買い物に来られますので、地域の方になるべく広くこのプロジェクトを知ってもらえるように、とこういう活動もさせていただいております。</p> <p>「STEP 3が設置していただく」ということで、今数か所に実際に設置させていただいております。例えば、デイサービスや枚方市地域包括支援センター東香会の事務所の前です。あと、賛同いただける場所が増えてきているところです。また、第13圏域にある衣料品店にもお話をさせてもらい、本部と協議をしてもらってる最中です。さらに、病院にもベンチや椅子を置かせてもらえたらなと考えています。介護施設にもお願いしております。ここに載ってる病院や介護施設に関しては、たぶん近々置いてくれるかなという感じです。</p> <p>「STEP 4でつながる」は、このような思いやる気持ちが、地域と人を「つなげる」ということで、目的地までの道のりに椅子を置いていくことで道が「つながる」というのにもかけてます。</p> <p>具体的には「ルート307プロジェクト」として「白い椅子プロジェクト」の副プロジェクトのようなもので、第13圏域の主要な一番大きい道路である307号線沿いには商業施設をはじめ、いろんなお店や病院とかが並んでいます。それぞれの場所に椅子を置くところが増えていけば、道がつながっていくのかなと考えています。</p> <p>また、実際に椅子に貼ってもらうステッカーのデザインです。これを近隣商業施設のベンチにも貼らせていただきました。</p>
<p>事務局</p>	<p>公道に椅子を置くのは難しいのかなと思い、土木部に確認したところ、条件が厳しく、有効幅員2メートルが必要で、車椅子2台がすれ違える幅が必要ということでした。公道にはなかなか置けないのではないかと感じていましたが、枚方市地域包括支援センター社協こもればでは、交差点の前ではあるものの敷地内に椅子を置いているということですね。</p>
<p>地域包括支援センター社協こもれば</p>	<p>公道から1メートルぐらい引っ込んでるところが敷地内にあったので、椅子を置きやすかったです。</p> <p>枚方市地域包括支援センター東香会も基本的には同じですよ。いわゆる私有地や敷地内に置かれているということですよ。少しお伺いしたいのですが、壊れたらどうするとか、怪我したらどうするといった管理について意見された場合、どのようにお話をされているのか、お聞かせいただいてもよいでしょうか。</p>

<p>地域包括支援センター 東香会</p>	<p>いろいろな方とお話させてもらいながら感じてるのは、このプロジェクトに対して反対する人はほぼいないです。枚方市地域包括支援センター社協こもればの報告書にもありますが、賛同をしないっていう方はいらっしゃらない。ただ、そういう細かなリスクを考えると二の足を踏んでしまう。だから、うちではそのリスクの面を極力下げるといふか、これは極端な話ですが、24 時間 365 日ずっと置いてくれって言われると、夜間とか置いておくのは怖いし、防犯も火災とかも怖いとなるけれど、週1回午前中だけでもいいので、そこのお店いらっしゃる時の1時間でもいいので、ちょっと出してもらえませんかと言うと、あっそれならできそうやなとって感じになります。その方の条件、いろんなご不安とかも含めて、対話しながら、これなら協力できる、協力したいという気持ちを活かしていきたいと思っています。確かにリスクがあり、これを100%解決するのは無理やと思っていますが、その不安のハードルを下げて、スモールステップといふか、できるところからという感じで取り組んでいます。</p>
<p>事務局</p>	<p>実際に椅子を置いておられる方から、どういう条件といふか、どういう時間帯に置いてる、とかこういう時は置かないとか、状況を置きかせただいてもよいでしょうか。</p>
<p>地域包括支援センターこもれば</p>	<p>事業所の開いてる時間である午前9時から午後5時半の間に椅子を出しています。雨の日は座るとお尻が濡れてしまうため、雨の日は事務所の中に椅子を置くようにしています。介護事業者や施設かも置いてくれるところはありますが、前を通る人が少ない、奥まったところの施設などは中まで人が入ってくることがないという声は聞いたことはあります。第1圏域でも少しずつ協力してもらえよう広げていきたいなと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>うちもデイサービスを一緒に実施していますので、デイサービスの敷地内に椅子を置いています。特に時間や曜日を決めていません。置ける時があれば置くといふかたちで時間も3～4時間置いてる時もあれば、1～2時間の時もあります。そんな状況ですが、職員から何回か座ってる方を見ましたといふのを聞いてますので、と良かったなと感じるところであります。</p>
<p>地域包括支援センター東香会</p>	<p>先ほどSTEPで説明しましたが、最初は、まずは賛同してくれる方協力してくれる方を増やすことと、この取り組みをしていることを地域に広めていくといふのが、第1優先と思っていました。しかし、裾野が広がれば、それだけ協力してもらえ方も増え、知名度が上がれば、最初断った人も賛成してくれて、実際に置いてくれるかもしれないといふところですね。そういう意味では地域包括支援センターとケアマネジャーだけでなく、より多くの協力が必要になってくるのかなと、そのように広がっていければいいかなと思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>第1圏域は樟葉のあたりで、第13圏域は国道307号があるということで、枚方市東部の山超えたら生駒という全然違う地域になります。似たような課題があります。また、それぞれに取り組みを始められてるという中で枚方市として、いきなり市内全域に拡大とはならないものの、進めていきたいなと考えています。</p>

委員	<p>今、お話しを聞いていて、すごく素晴らしい取り組みだと思いました。この取り組みは初めてお聞きしましたが、デイサービス連絡協議会の研修会等でも説明していただいて、こういう活動をこれからしていくということを伝えれば、60 ぐらいの会員の事業者に一斉に広げることにはできるんじゃないかなと思いました。もちろん、うちも協力したいなと思いましたし、協力できる事業者はいっぱいあると思います。例えば、バス停が事業所の近くにあるけれど、座るところがないという場所なら、事業者も出してくれると思います。ただ、椅子は、どんな椅子がいいのか、どんなベンチがいいのか、ということにルールを作り、ルールがある中で活動として広げていけるのなら、僕は協力させていただきます。ぜひやりましょうと思っています。</p>
委員	<p>私は理学療法士なので、立ったりとか歩いたりする基本動作をリハビリテーションする専門家です。自分の力で歩き続けてもらうことは非常に重要だと感じることも多いため、専門家目線でいくと、椅子の高さは40センチで肘付きが欲しいよねということになります。ただ、それは今回のプロジェクトと主旨が合うかどうかと考えると、検討が必要だと思っています。お店の前に置いて、お店の景観を崩すような問題ももちろんあるので、必ずしも体にとっていいものがこのプロジェクトに沿うっていいものではないかなと思います。そこはいろんな考え方をもって取り組むことが大事なかなと思っています。</p>
委員	<p>ひとつ思ったことは、お風呂介助用の椅子ってすごく安定感があります。しかも裸で座るのでクッション性もあるんです。ただそれを外に出すっていうのがいいのかどうか、となりますが安定感は抜群だと思います。高さも多少変えられるっていうのもあります。各事業者や福祉用具の方では、不要なお風呂介助用の椅子がある可能性がある一方で、そういうのを活用いただくのも1つ使えるのではないかなと、安定感はあるかなと思います。</p>
委員	<p>ごめんなさい、対立意見になってしまいますが、このプロジェクトを伺った時にまず思ったのが、医療や介護の業界だけでなく、商業関連を巻き込むように感じたんです。例えば、影響力のある地域のローカルポータルサイトに、この話を持ち込んだら、みんなでやってみようか、という形で進むんじゃないかなという予感を感じました。そうなってくると、おしゃれなお店では、安全性と景観を配慮していく注意が必要で、どう料理していくかが大事なかなと感じました。</p>
地域法包括支援センター一東香会	<p>まずは施設や事業者、特にデイサービスに、余ってる椅子ないですかと声をかけしました。まだ使える椅子で本来さっき言われた肘かけがあればより安全性が向上するとは思いますが、そこもあまり限定してしまうと、このプロジェクトにブレーキかかってしまうのかなと思い、まずはなるべく条件みたいなものは低くして協力してくれる人増やしていく、それを第1優先に考えました。</p>

委員	<p>今日の案件の外出支援について、私もどんな課題があるのかなと思い、調べてみましたが、やはり外出する際の大きなハードルが、例えば坂道や道が狭いというのが1番目の課題で、課題の2つ目がこの休憩する場所がないというまさしくこの「椅子プロジェクト」だったんですね。今日私はお話し聞かせていただいて、高齢者の外出支援にとってどれも本当に有効な手段だなと思いましたので、ぜひすすめていってきたいなと、また協力させていただけたら思いました。</p>
委員	<p>私も非常に良い取り組みだなと感じました。あとは、休みという機能だけではなくてそこで人と人が話をしたり、仲良くなったり、或いはそこで知り合ったり、というひとつの社交の場でもあったらすごくいいなという気がします。そういった意味では、その椅子が1個ではちょっと寂しいのかな、場所にもよりけりなんでしょうけども、やはり数人がゆっくりと休めるということがあったら、さらにいいのかなという気がしました。</p>
委員	<p>高齢化が進む中で、こういう考え方は絶対あると思いますね。だからやるということについては賛成ですけども、実際に置くにあたっての先ほどおっしゃったような景観の問題ですね、町の景観の問題、それと劣化の問題ですね。うちはボランティア団体で子育て施設などに支援に行ってますが、屋外に置けるベンチとか1人用の椅子など、ものすごく劣化が激しいです。僕らが、しょっちゅうペンキを塗り替えたり作り、補強したり、ということをやってます。そういう屋外に置きっぱなしにするのか、都度中へ入れるのか、とかいろいろ考える必要があると思っております。また、ベンチの場合は寝転ぶ人なんかが出てきたら、ちょっとそれこそ町の景観にもかかわることですから、運用についてはよく考えた上でやらないといけない問題があると思いますね。</p>
事務局	<p>この「椅子プロジェクト」については、枚方市地域包括支援センター東香会が報告したとおり、1時間でもいい1日でもいいということなので、ベンチではなかなか難しいということ、管理も大変なことになるのでベンチはやめて椅子がいいのではないかとということで、椅子を置く活動としております。</p>
委員	<p>福祉委員会協議会からの参加ですが、私自身は第2層協議体のコーディネーターや事務局をしている立場でお話させていただきます。</p> <p>「椅子プロジェクト」もその前の「お出かけタクシー」のお話も参考になりました。数年前、第1層協議体に参加した頃は、まだ最初の頃でなかなかこうした具体的な議論がなかったと記憶しております。そういう意味では第2層協議体の意見からこのような議論ができるようになってきているのはすごいことだと思います。ただ、やはり地域性に大きな違いがあり、私どもの校区は割と駅に近く、東西に向かって横に平らたく、周りに商業施設等がある校区ですので、先ほどのタクシーでの移動やいすを置けるような施設がないのが現状かなと考えています。子どもたちの通学経路も東西に長く、ちょうど校区の真ん中に背骨のように通った道があります。グリーンラインを引いて安全確保をしており、このようなところで何かできるのかなというのを、今お話を聞きながら考えていました。子どもと高齢者の安全確保には似たところが結構あり、ご高齢の方が、特に殿山第二小学校側は公園もないので、外に出た時に、どういったところで</p>

	<p>休憩するのかなということも考えなければいけないのかなとは思いました。</p> <p>少し長くなりますが、この第1層協議体の資料は非常にいい資料を整えられているんですが、これが第2層協議体に提供されていないということについて、早急に改めていただきたい。第2層協議体から課題を出して、我々は情報をどんどん上げているけれども、それがフィードバックされていない。もちろん各圏域でそれぞれの地域包括支援センターが参加されているわけなので、圏域ごとで共有をされているのかも知れませんが、第2層協議体に対して共有されていないので、何をしたらいいのかの気づきが遅れると思います。また、第2層協議体の資料を出すときに小さな封筒しかいただけないので、大きな封筒に入れて、私の持っている資料をお出ししています。それが共有できていないことは、やはり今後は問題になる。こうやって、第1層協議体の議論のための資料にしていだけるのであれば、第1層協議体がきちんと資料を提供していただきたい。</p> <p>私どもの校区のホームページでは、毎年、年2回4月1日と10月1日に統計グループから直接データをいただき、町丁字別の年齢を年齢階層で高齢化率等すべてを出しています。ちなみに、この4月は枚方市の高齢化率が28.9%のところ、私どもは29.9%ということで高齢化率が1ポイント高いことや、平均年齢も枚方市の48.0歳に対して、48.8歳で0.8歳高いところは分析していて、それを自治会にもフィードバックをしているところです。とはいえ、校区にはそれ以上の情報は来ないので、先ほどの要介護認定率、要支援認定率に関しても、市の情報があれば、圏域ごとの情報は地域包括支援センターがお持ちになっているのであれば、第2層協議体での我々が介護予防を進めていくというのであれば、どういう状況であるかの情報は提供いただきたい。また、年齢、人口、やっている中で気づいたことは、養父丘2丁目の高齢化率が非常に高いことです。実際には特別養護老人ホームがあることで極端に上振れしている可能性があります。地域が分析をするためには、行政のご協力が必要だと思います。</p> <p>災害関係の名簿を見返して、資料が乱立したままで情報を整理されていないというのは、私も第2層協議体を作った時から課題に入れてますが、市から何のフィードバックもなく、まだ難しいですという話のままで動いていません。こういったことを動かしていただく。個々のプロジェクトはそれぞれ情報提供をいただければ我々の中でも考えていきますが、根本的な部分の進展がされないと思うのでそこは重々よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>今いただいたご意見については、地域包括支援センターとも共有いたしまして、個別にお話しさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>高齢者の外出支援でいろんなことをお考えになっているのは、非常にありがたいなと思っております。</p> <p>少し気になったのは「椅子プロジェクト」のところで、どなたでもお座りくださいというステッカーを貼り、ご自由におかけください、とすると今の若者はすぐ座りたがりますので、高齢者の方、障害の方達に座ってもらう椅子なんだよ、というふうなことも頭に入れていただけたらなと思っております。</p>

委員	<p>高齢者を家に閉じ込めなくて、少しでも居場所を作って出てきてもらうというので、居場所を主体に老人クラブ連合会は今までずっと動いてきています。今日、この「お出かけタクシー」や「椅子プロジェクト」の取り組みを素晴らしくお聞きしました。高齢者が普段生活されて困っているという観点で、老人クラブは今までそういう目でメスを入れてないので、そういう方向の取り組みが今後必要かなと感じています。みんなにどういうふうに声かけしていこうか、要するに皆さんの持っておられる悩みを抽出する方法をちょっと考えてみたいなど、この会に今出席して思います。</p>
委員	<p>「椅子プロジェクト」は大変いい案だと思います。先日6月に他府県にある神社に紫陽花を見に行っただけです。そこで大々的に社会福祉協議会が中心になって民生委員や職員が集まり、チラシとかを配ってらっしゃったんですが、その時にベンチなんかかっていう企画について事業者や商店がとても協力的で、町中の多くのベンチを地図に書いているパンフレットをいただいて、これはいいことだなと思って帰ってきました。今日このお話を聞かせていただいて、私も地域で小さい子から高齢者の方まで、安心して座れるようなそんな場所を作りたいなということをもっと思いました。課題はいろいろあると思いますけども、一つひとつ丁寧に考えながら、また地域に広げられたらいいなと思いました。</p>
委員	<p>そもそも「椅子プロジェクト」を始めて欲しい、というきっかけが第1圏域の事例でした。それ以前にも、自立支援型地域ケア会議はケアマネジャーも参加するもの、高齢者の移動のことが課題が出てた中で、私たちに何ができるんだろう、みんなと何に取り組めるんだろうっていうのをずっと考えてきた中の、これだったらいけるんじゃないかなっていうところがこの椅子でした。何年もかけてやっとここまで来たっていうイメージなので、今とても感動して、この数時間を過ごさせてもらいました。</p> <p>現実的な話でいきますと、少子高齢化で、ケアマネジャーや特にデイサービス職員等の介護の支援をする側は非常に減っています。その中で買い物に行くだけでヘルパー利用をすること等は非常に厳しくなっているのが前提であるということと、閉じこもることが困るからデイサービス利用というのも、おそらく今後は次第に使えなくなっていくので、ご自身の力でどこかに行ったり、何かに取り組んでもらうという地道なところからはじめていかなければいけないと思うので、1人ひとり何ができるのかということを考えていながら、この椅子プロジェクトをすすめていけたらなあと思っております。</p> <p>デイサービスや施設のみなさん、できたら自治会館の前とかでも、またこの椅子にご協力いただけたらなと思いながら聞いておりましたので、どうぞみなさん私たちも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

委員	<p>外出支援の取り組みについて、非常に興味深く聞かせていただきました。</p> <p>いろいろ地域の課題について、限られた資源や資金範囲内で取り組まれていらっしゃるの、すばらしいなと思いましたし、特別養護老人ホームの施設として、どのように協力させていただけるのかについて、まずは次回の施設長会でそういう取り組みをお伝えさせていただきたいなと思います。振り返れば私の施設でもベンチ置いています、確かに毎日座りに来る方がいらっしゃるなど思いながら、一昔前はいろいろ自動販売機のベンチやバス停の椅子があったりして、町中に椅子を沢山見かけたような気はしますが、最近は防犯や治安上の観点からか、めっきり椅子はないなと思いましたし、非常にいい取り組みだと思います。</p>
委員	<p>今回のこの「椅子プロジェクト」というお話聞かせていただいて、私は社会福祉法人に所属してますので、地域貢献を考えていかないいけないため早速持ち帰り、当施設でも法人としても考えて、協力できるようなことを提案したいなと思ってます。私の勤めてるところも坂道でバス停もあるんですけど、確かに椅子がないなあと思っていましたので、施設として協力したいなと個人的にも思いました。よろしく願います。</p>
事務局	<p>今回の「椅子プロジェクト」などの取り組みについては、ぜひ各団体を代表してご出席いただいている皆様に、それぞれの団体へ持ち帰りご報告いただきたいと思えます。また、その時にどのような意見がでたのかを次回の第1層協議体でお伝えいただけたらと思っております。</p>
事務局	<p>「その他」ということですが、介護予防・日常生活支援総合事業が始まりましたから、もうすでに数年経過しております。その中の生活支援・サービス事業であります「教室型通所指導事業」と一般介護予防事業であります「ここから介護予防教室」という通所型の教室につきましても、今後、評価を行っていくことを考えております。</p> <p>またこの場で、皆様のご意見等をお伺いさせていただくようなこともあるかと思えますので、その折にはご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>これで第1回第1層協議体を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>